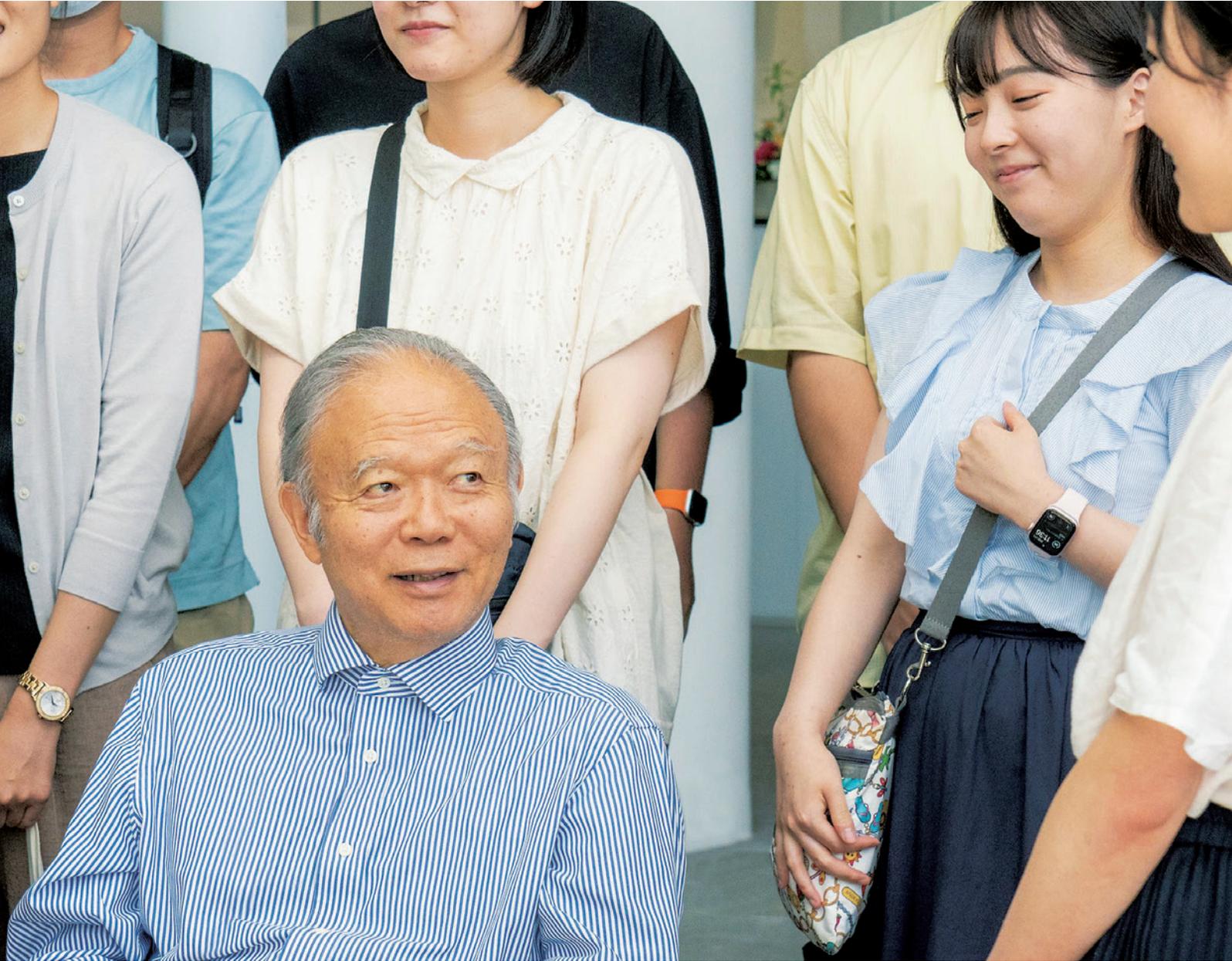


公益財団法人 吉田育英会
(事業のご案内)



YOSHIDA SCHOLARSHIP FOUNDATION



マスター21研修旅行(2024年7月31日、YKK50ビル(富山県黒部市))

世界を照らす光、そして希望に

1967年に設立された当会は2017年に50年の節目を迎え、その後も奨学生、会友、その他関係する多くの方々と一緒に、毎年歴史を積み重ねてきました。50周年の翌年からは「それぞれの夢を それぞれの未来へ」を大切なキーワードとして、事業のさらなる広がりや深まりを目指しています。

ここで言う「それぞれの夢」とは、奨学生の皆さんの夢ばかりではありません。なぜなら、当会を設立したYKKの創業者 吉田忠雄も、自身の手記において「夢は起きるときに見たいもの」と、世界に飛躍する若者たちをサポートする奨学財団をつくることに言及しているからです。つまり、夢を追う皆さんを真摯に支えることこそが、創業者の大切な夢でもあったということなのです。

吉田忠雄は、「新たな価値の創造により社会に『善』を尽くし続けられ、やがて『善』は限りなく世界を巡ってゆく」という、いわば壮大な円環、サークルのイメージから、

「善の巡環」という独自の実践哲学を生み出しました。私が何よりも嬉しいのは、当会の事業が、YKKの企業精神である「善の巡環」を極めて純粋な形で体現した取り組みであるからです。そして、私は「善きことには、波紋のように広がっていく力がある」と強く信じています。奨学生の皆さんには、多くの出会いを通して、新しい知の扉を開いていただきたいと思います。混迷の中にある現在のような時代には学問の力が必要です。学問の探究を通じて得られる、事象を深く理解するための知見こそが、世界を照らす光であり、希望になり得るからです。関係者各位におかれましては、当会に一層のご理解ご協力を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

吉田忠裕

公益財団法人吉田育英会
理事長

【奨学金の理念】

吉田育英会は、未来のリーダーとして国際舞台で活躍し、成果を社会に還元できる人材の育成を目指しています。

優秀な学生が、勉学や研究のチャンスに心置きなく挑戦できるよう、進学に先だって選考・採用を行い、高水準で返還不要な奨学金を提供します。

【設立者 吉田忠雄と『善の巡環』】

YKKの創業者吉田忠雄は、事業をすすめるにあたり、企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利点を分かち合うことにより社会からその存在価値が認められると考えました。YKK精神『善の巡環』は、「他人の利益を図らずして自らの繁栄はない」という吉田忠雄の考え方です。

吉田忠雄は、世界を視野に入れた事業活動を通じて、国際舞台で活躍できる人材を広く育成、教育することが重要であるとの強い想いに至り、1967年に当会を設立いたしました。



吉田育英会設立者・吉田忠雄 略歴

- 1908年 現在の富山県魚津市に生まれる
- 1934年 YKKの前身となるサンエス商會を東京・日本橋に創業
- 1945年 東京大空襲により魚津に疎開、再興を図る
- 1954年 富山県黒部市にファスナー一貫生産工場建設着手
- 1959年 インドにファスナー製造プラント輸出
アルミ建材工場の操業開始
ニュージーランドに第一号海外現地法人を設立
- 1974年 米国ジョージア州に海外初のファスナー一貫生産工場建設
- 1984年 社長として創業50年を迎える
- 1985年 ブラジルに農牧業用地を取得しコーヒー栽培を開始
- 1993年 逝去(84歳)

【国内プログラム】

■ 大学院生給与奨学金〈マスター21〉

国内の大学院修士課程(博士前期課程)において自然科学系分野を専攻する日本人学生に対し、在学中の奨学金を支給します。

■ 大学院生給与奨学金〈ドクター21〉

国内の大学院博士後期課程において自然科学系分野を専攻する日本人学生に対し、在学中の奨学金を支給します。

【国際プログラム】

■ 日本人派遣留学プログラム

海外の大学院博士課程等に留学し、人文・社会科学系または自然科学系分野を専攻する日本人留学生に対し、奨学金を支給します。

■ 受入留学生給与奨学金〈YKK リーダー21〉

日本の大学院において自然科学系分野を専攻する外国人留学生に対し、在学中の奨学金を支給します。

■ カーターセンターインターンシップ奨学生

カーターセンターは、カーター元米大統領によって設立された国際NGOです。インターンとして調査研究に携わる日本人留学生を同センターに派遣し、奨学金を支給します。

■ フルブライト奨学金

日米教育委員会の実施するフルブライト・プログラムを通じて、日米の奨学生に対して奨学金を支給します。



将来何が必要か、 今何をすべきかを見極める

梯 友哉 (かけはし ゆうや) さん
国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構
(JAXA) 研究開発部門

2009年度採用 / マスター21
奨学期間中の在籍大学: 慶應義塾大学大学院
理工学研究科 開放環境科学専攻

大学や研究機関、民間企業が開発した機器や超小型衛星に宇宙実証の機会を提供するプログラムを担当し、機器を搭載するための小型衛星の開発も行っています。宇宙開発利用への参入のハードルを下げられるようにしつつ、どうすれば日本の技術や宇宙産業が国際競争力を持てるかを考えて仕事をしています。今、世界的に宇宙開発利用が民間主導に変化し、宇宙産業は大変革の時代を迎えています。だからこそ好奇心と責任感を持って、将来何が必要か、今何をすべきかを見極めることが重要だと考えています。

これまで生命システムを非生物由来の物質から創製する研究に取り組み、「生命性の本質」の一つであるオートポイエティックな性質(自己維持能力と自己回帰能力)をもった分子システムを開発してきました。例えば、増殖するペプチド液滴です。エサを水中に投入すると、分子が勝手に自己組織化して、ペプチドというタンパク質の断片をつくりながら液滴を形成します。この液滴は何世代にもわたって増殖しました。これは生命起源の「化学進化説」100年間の未解決問題を説明し得るとの評価を得ています。約40億年の進化という長大な実験の結果である生命性を、分子化学の視点で解き明かせたらと考えています。

生命性を分子化学の 視点から解き明かす

松尾 宗征 (まつお むねゆき) さん
広島大学 大学院統合生命科学研究科
超越化学グループ 助教

2013年度採用 / マスター21
2015年度採用 / ドクター21
奨学期間中の在籍大学: 東京大学大学院
総合文化研究科 広域科学専攻



混沌の中でもがいた 明治維新の外交の歴史

澤井 勇海 (さわい いさみ) さん
東京科学大学 リベラルアーツ研究教育院
准教授

2016年度採用 / 日本人派遣留学プログラム
奨学期間中の在籍大学:
ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス (LSE)
国際関係史学部

19世紀後半の政治や外交の歴史を紐解き、東アジアの対外政策形成過程がどう再編成されたのかを研究しています。明治維新のわずかな期間に日本は混沌の中でもがいていました。その頃、西洋から入ってきた「ディプロマシー (Diplomacy)」という概念を、日本は「外交」と訳し、広く用いてきました。このディプロマシーを受け入れた前後に日本の対外政策形成は内在的に大きく変容していったと考えられます。現在は当時の国際法がどのように理解されていたかを東アジアと西洋圏の両方の視点から検証を進めています。

Mathematical simulations offer a powerful alternative which can significantly reduce costs compared to practical experiments and even enable the analysis of phenomena that are otherwise invisible. My research focuses on applying mathematical simulations to practical problems, such as resistance measurement in semiconductors, as well as on theoretical studies of fluid-related equations using computer-assisted methods. Furthermore, inspired by the many opportunities I have received since coming to Japan, I have been organizing exchange programs to invite students from China and Taiwan to Japan each year, with the aim of sharing these experiences with the next generation.

Contributing to society through mathematical knowledge and personal experiences

Xuefeng Liu さん
Professor, Department of Information and
Sciences, Tokyo Woman's Christian University

Asia 100*/Awarded in 2004
University during scholarship period:
Graduate School of Mathematical Sciences,
The University of Tokyo
*Predecessor of YKK Leaders 21



大きな理想で多くの人々を 動かしたカーター元大統領

木村 真紀葉 (きむら まきは) さん
国連人道問題調整事務所
(UNOCHA) 職員

2011年度採用 / カーターセンター
インターンシップ奨学生

私にとって、カーターセンターでのインターンシップは、その後のキャリアに大きな影響を与える貴重な機会でした。インターンシップ中、カーター元大統領と直接お会いし、お話しする機会を複数回いただきましたが、紛争解決や疫病の撲滅などの大きな理想を掲げ、その実現のために多くの人々を動かす元大統領の人柄に深い感銘を受けました。カーター元大統領の志を引き継いだカーターセンターのさらなる発展と活躍を心より祈念いたしております。



【交流事業】

吉田育英会では、奨学生を対象に交流事業を実施しています。交流会や研修旅行等の機会を通じて、奨学生が互いの理解を深めることで、奨学期間終了後も末永い交友を結ぶことを期待しています。交流会では会友(OB・OG)の皆さんから現役の奨学生にアドバイスや励ましの言葉をいただくこともあります。

また、交流事業の一環として、会報誌『環[WAVE]』を発行しています。新規採用者の紹介や交流会のレポート、会友による座談会やインタビュー等の記事を掲載し、誌面が奨学生や会友の皆さんの交流の場となることを目指しています。





*Yoshida
Scholarship
Foundation*

<http://www.yzf.or.jp>



公益財団法人 吉田育英会

〒130-8521 東京都墨田区亀沢3-22-1 YKK60ビル内

Tel: 03-5610-8103 Fax: 03-5610-8104

Mail: webmaster@ysf.or.jp

2025/07/01